

# 第11回 今年も「善福寺川 水鳥一斉調査」を行いました!!

## 【水鳥一斉調査の目的】

現在の善福寺川の自然を知ることと、区民の皆さんにもっと善福寺川に注目してもらうことを目的に、善福寺川でどんな水鳥が、どこで、どれくらい利用しているかを一斉に調べる、「善福寺川 水鳥一斉調査」を実施しました。水鳥以外の鳥もあわせて調べました。

＜実施日＞ 平成31年1月19日(土)10:00~12:00 晴れ

## 【調査の方法】

区民の皆さんと善福寺川の自然を再確認する＜区民参加による水鳥調査＞と、善福寺川全域の水鳥の利用状況を把握する＜専門の調査員による水鳥調査＞を行いました。

## ＜調査ルート＞



## ＜区民参加による水鳥調査＞

今年も善福寺公園（Aルート）、西田橋～尾崎橋（Dルートの一部）、尾崎橋～和田堀池（Eルートの一部）において、善福寺川流域の小学校の児童とともに、鳥に詳しい先生の解説を受けながら、善福寺川を利用する鳥について観察し、種類や個体数を記録しました。



参加して頂いた小学生の皆さんとの調査風景

## ＜専門の調査員による水鳥調査＞

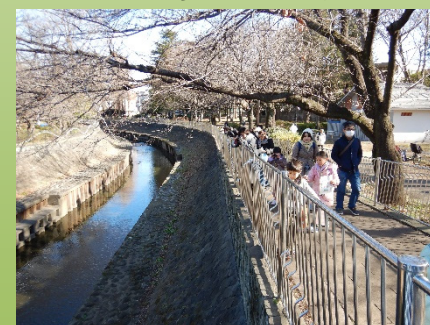
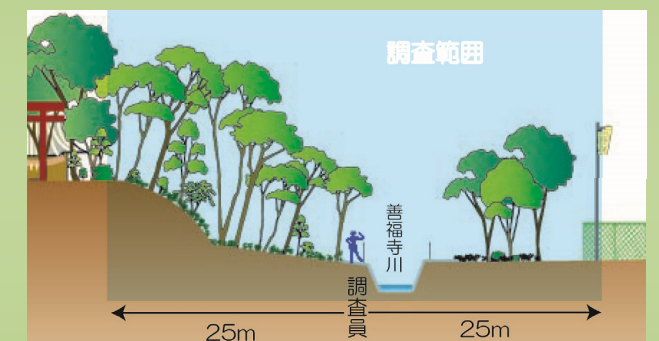
善福寺川を6区分し、それぞれの区間に約2kmの調査ルート（A～F）を設定、各ルートに出現する鳥類の確認を同時間一斉に実施しました。

調査は、一定の速度で2時間歩き、ルート上の幅50m（片側25m）の範囲に出現する鳥類の種類、個体数、諸行動について記録しました。

各ルートについて、Aルートは池の周辺に樹林や植栽帯、池内にヨシや低木が点在しています。B・Cルートは住宅地内、D・Eルートは緑地内をそれぞれ川が流れて、Fルートは住宅地からビル街にかけて川が流れています。



池があるAルート



緑地が広がるD・E・Fルート



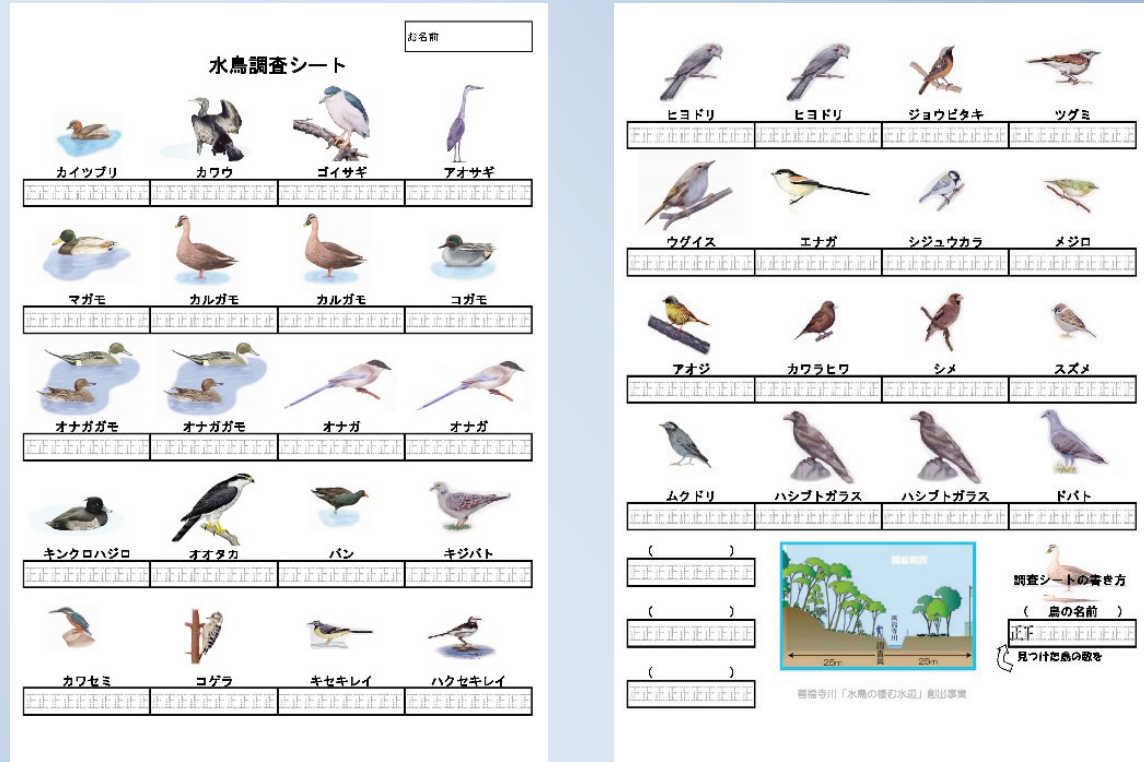
専門の調査員による調査風景



# 今年の水鳥調査参加小学校

## ◇参加小学生による調査記入シート

小学生による調査記入シートにはどんな鳥を見たのかがすぐわかるように鳥の絵が描かれています。そこに見られた鳥の数を「正」の字を使って記入し、最後に集計をします。鳥の絵は、解説員で野鳥図鑑画家でもある谷口高司さんに描いていただいたものです。



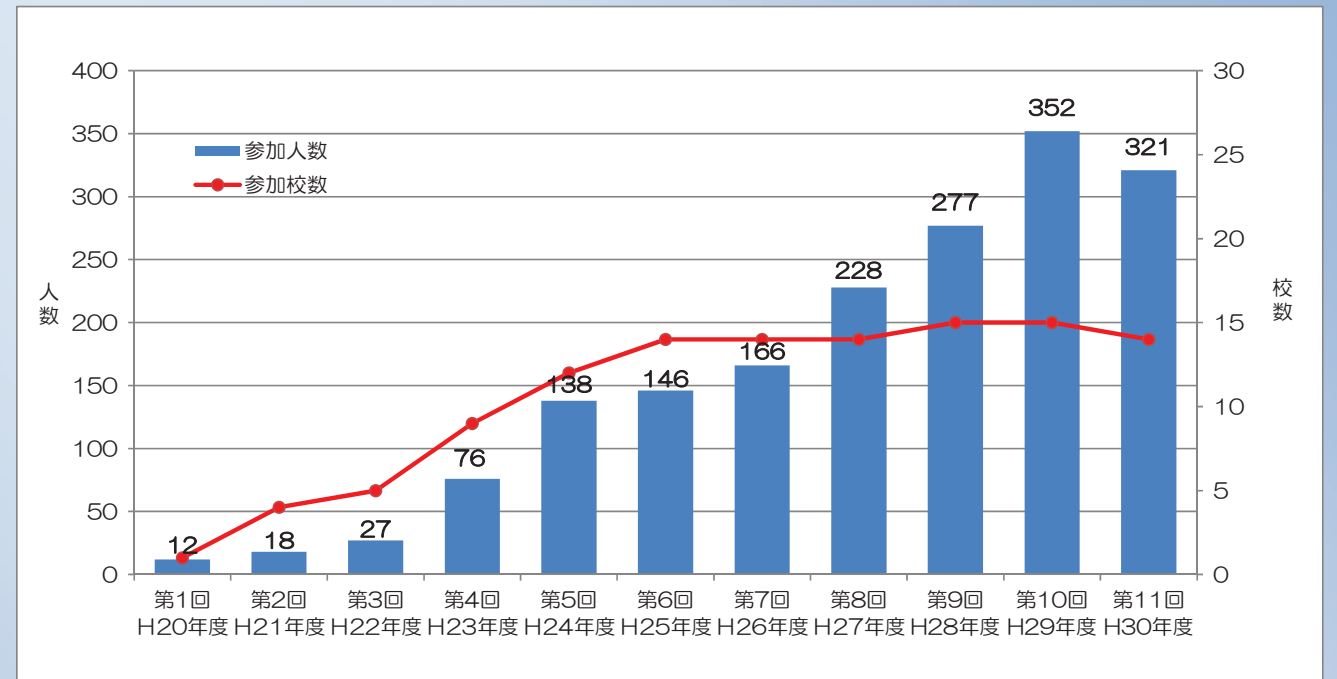
## ◇今年の参加小学校

今回の調査には、区内の小学校14校が参加しました。第11回を迎える今年は、小学校14校148名の生徒さんと、その保護者の方々173名の合計321名が参加しました。

調査コース	参加小学校(14校)	参加人数	解説員
善福寺公園	井荻 桃井第一 桃井第二 桃井第三 桃井第四	小学生: 65名 保護者(未就学児含む): 73名	3名
西田橋~尾崎橋	杉並第一 杉並第二 杉並第七 西田	小学生: 47名 保護者(未就学児含む): 53名	3名
尾崎橋~和田堀池	済美 松ノ木 堀之内 浜田山	小学生: 36名 保護者(未就学児含む): 47名	4名
計		小学生: 148名 保護者(未就学児含む): 173名	

## ◇水鳥調査参加状況の推移

第1回は小学校1校、12名の人数で始まった調査ですが、回を重ねるごとに参加者、参加校が増えており、近年では300名前後の方々に参加しています。



## ◇今年の参加小学校の位置図

今年も善福寺川流域の小学校に参加いただきました。





# 区民参加による水鳥調査の結果

## ◇最近3年間の調査結果(確認した鳥と数)

今年の調査では、「水鳥」は、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ハクセキレイが多く確認され、計 16 種が確認されました。「水鳥以外」では、シジュウカラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ドバトが多く確認され、計 24 種が確認されました。

確認した種	今年の結果(2019年1月)			昨年の結果(2018年1月)			2017年1月の結果		
	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船場橋)	Eルート (船場橋~和田池)	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船場橋)	Eルート (船場橋~和田池)	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船場橋)	Eルート (船場橋~和田池)
1 アオサギ	4~20		1~9	1~6			1~16	1	1~2
2 オオバン	1			1~10			1~9		
3 オナガガモ	1~79	2~14	2~30	2~55	1~5	1~11	2~41	1~22	2~16
4 カイツブリ	1~23		2	1~20	1~2	2	1~7	1~3	1~6
5 カルガモ	4~80	5~30	3~64	3~65	2~15	5~35	3~49	1~50	4~48
6 カルガモ×マガモ							1~8		1~16
7 カワウ	1		1	1~5	4	1~2	2~4	1~20	1
8 カワセミ	1~21	1	1~4	1~6	2~6	1~7	1~2	1~16	1~3
9 キセキレイ	1~7	1	1~4	3	1~4	1~5	2	1~50	1~8
10 キンクロハジロ	1~28		1~14	5~40			1~2	1~11	1
11 ゴイサギ	1~11	1		1~5			1~12	1~5	4
12 コガモ	1~15	1~4	1~6	1~2	1~2	1~6	1~4	1~3	1~6
13 コサギ	1~7			2			5	1	1~7
14 スズガモ								1~7	
15 セグロセキレイ									
16 ダイサギ				1~2					1~3
17 ハクセキレイ	1~10	3~14	1~15		1~10	1~7	1~19	1~30	1~12
18 ハシビロガモ	1			1					
19 バン	6			1~4			1~13		
20 ホシハジロ				1~4					
21 マガモ	1~17	1~5	1~9	1~30	1~5	1~14	1~11	1~30	1~14
22 コリカモメ									
23 アイガモ(アヒル含む)									
24 パリケン									
小計	16種類	8種類	11種類	17種類	9種類	10種類	15種類	14種類	15種類
	16種類			19種類			18種類		
1 アオグラ				1~4					
2 アオジ	1~3			1~1	1~5			1	
3 アカハラ				1					
4 アトリ	1	1~6	1~13				15~32	1~50	1~25
5 ウグイス	1~2		1	1~2	1~4		1	1~2	
6 エナガ	1~4	1~23	1~3	7~15	10	2	1~15	1~10	1~20
7 オオタカ	1~11		1~3					1~3	
8 オオガ	1~10	5~10	1~12	1~10	1~17	1~5	1~15	1~5	1~9
9 カワラヒワ	1~5	1~9	3~10	2	1~5	1~30	1		1~39
10 キジバト	1~25	1~31	1~12	1~12	1~9	2~17	1~50	1~79	1~28
11 コガラ	1~4	1~5	1~3	1~5	1~5	1~2	1~4	1~22	1~3
12 シジュウカラ	1~45	1~13	1~14	1~30	1~17	1~10	1~24	1~20	1~25
13 シメ	1	1~2	1~15				1	1~4	1~10
14 ヨウビタキ	1~10			1	1		1~2	1~2	1
15 シロハラ	2		1~2					1~3	
16 スズメ	1~7	1~5	1~12	1~30	1~3	2~15	2~4	1~50	1~7
17 ツグミ	1	1~5	1~4	1~8	1~12	1~5	1~6	1~40	1~9
18 ツミ			1						
19 トビ						1~7			
20 ハシブトガラス	1~47	1~10	1~73	1~12	1~27	1~30		1~50	1~40
21 ハシボソガラス	1~4	1~5	1~6	1~2	1~3	2~12	20	1~6	1~15
22 ヒガラ		10					1	2	
23 ヒヨドリ	2~53	2~46	3~27	5~61	2~74	2~41	2~36	1~36	2~70
24 ムクドリ	1~6	1~30	2~4	1~8	1~42	1~50	2~38	1~50	2~137
25 メジロ	1~3	1~10	1~5	1~5	1~5	1~4	1~10	1~11	1~4
26 モズ						1	1		1
27 ヤマガラ		1~6						5	1
28 ルリビタキ							1~2		
29 ドバト	1~41	6~128	1~29	1~31	1~10	1~6	1~139	1~250	1~66
30 ホンセイインコ								1~13	1
31 ニワトリ						1			
小計	21種類	18種類	20種類	19種類	17種類	17種類	18種類	24種類	21種類
	24種類			22種類			26種類		
確認した鳥の種類数	37種類	26種類	31種類	36種類	26種類	27種類	33種類	38種類	36種類
	40種類			41種類			44種類		

注意1: 調査用紙に記入された観察数のうち、最少数~最多数を示している。ただし、極端に数が多かったり、不自然な種類の記載があった場合は修正を行った。

注意2: 赤字はそれぞれのコースで確認個体数が多い上位3種。

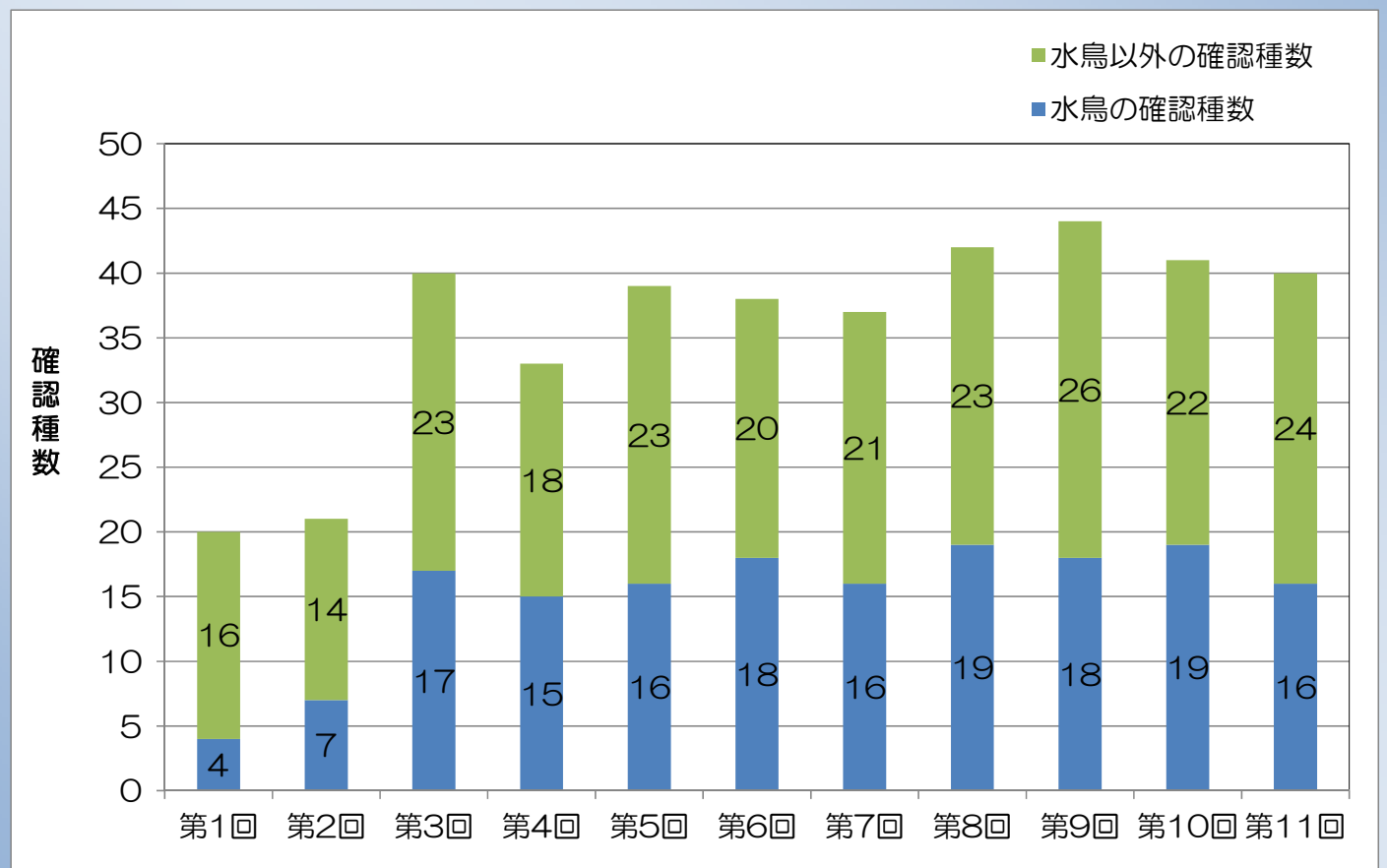
注意3: 確認した種は、過年度の調査で確認された鳥を含む。

## ◇今年確認された主な水鳥たち



## ◇確認された鳥の種数の推移

当初、確認種類数は少なく、合計 20 種類程度でしたが、参加者や調査範囲が増えることにより、確認された鳥の種類も徐々に増え、近年は、水鳥、水鳥以外の種類のそれぞれ 20 種近くを観察できるようになりました。その中で今年は、合計 40 種類を確認しています。







# 専門の調査員による水鳥調査の結果 2

## ◇善福寺川における11年間(11回調査)の「水鳥」の確認状況



11回の調査で  
確認された回数

	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート	
9回～11回 (ほぼ毎年)	 カイツブリ  ゴイサギ  アオサギ  マガモ  カルガモ  オナガガモ  キンクロハジロ  バン  カワセミ  ハクセキレイ	 コサギ  カルガモ  コガモ  オナガガモ  キセキレイ  ハクセキレイ	 コサギ  カルガモ  コガモ  オナガガモ  キセキレイ  ハクセキレイ	 カルガモ  オナガガモ  キセキレイ  ハクセキレイ	 カルガモ  オナガガモ  キセキレイ  ハクセキレイ	 カルガモ  コガモ  オナガガモ  キセキレイ  ハクセキレイ	 カルガモ  コガモ  オナガガモ  ハクセキレイ
7～8回	 カワウ		 ダイサギ  カワセミ		 カワウ	 キセキレイ	
5～6回	 コサギ  コガモ  ハシビロガモ	 ダイサギ  キンクロハジロ  カワセミ	 カワウ  ハシビロガモ  セグロセキレイ				
3～4回	 ダイサギ  ホシハジロ  オオバン	 カワウ  マガモ  ハシビロガモ  セグロセキレイ		 カワウ  コガモ  キンクロハジロ  カワセミ	 コサギ  マガモ  キンクロハジロ	 コサギ  マガモ	
1～2回 (稀れ)	 ユリカモメ  キセキレイ	 ヒドリガモ  ホシハジロ  スズガモ	 ゴイサギ  チュウサギ  アオサギ  オシドリ  ヒドリガモ  マガモ  キンクロハジロ  オオバン	 チュウサギ  コサギ  セグロセキレイ	 カイツブリ  ダイサギ  バン  カワセミ	 カワウ  キンクロハジロ	

確認された種類数

19種類

16種類

19種類

11種類

13種類

9種類



# 専門の調査員による調査結果 3 (11年間の調査のまとめ)

## ◇主な生育環境による区分別の確認種数(11年間)

11年間の一斉調査の結果から、確認された鳥を主な生息環境により区分し、種類や確認個体数をルート別に平均して比較しました。

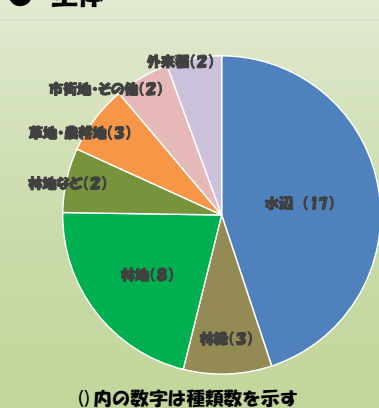
### ● 全体

- 善福寺川全域には約36種、1100羽ほどの鳥が利用していることが分かりました
- そのうち善福寺川にいる「水鳥」は、約17種、720羽でした。

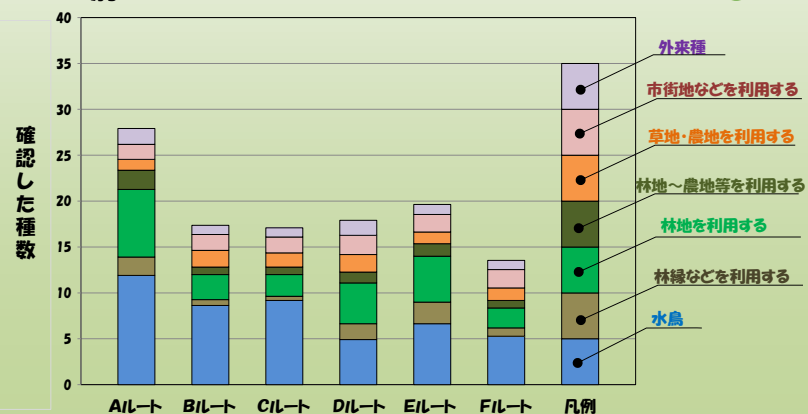
### ● ルート別

- Aルート(善福寺池)では、約28種類、400羽で最も多くの鳥がみられました。
- 対照的に、種類が最も少ないのは最下流部のFルートで約13種類、195羽でした。
- Aルートは、約12種類の「水鳥」がみられ、その数は約230羽となります。
- 対照的に、「水鳥」の種類が最も少ないのは善福寺川緑地の中を通るDルートでした。
- 「林縁」「林地」「林地～農地」を利用する鳥は、A、D、Eルートで多く、その種類は、10種類程度でした。

### ● 全体



### ● ルート別



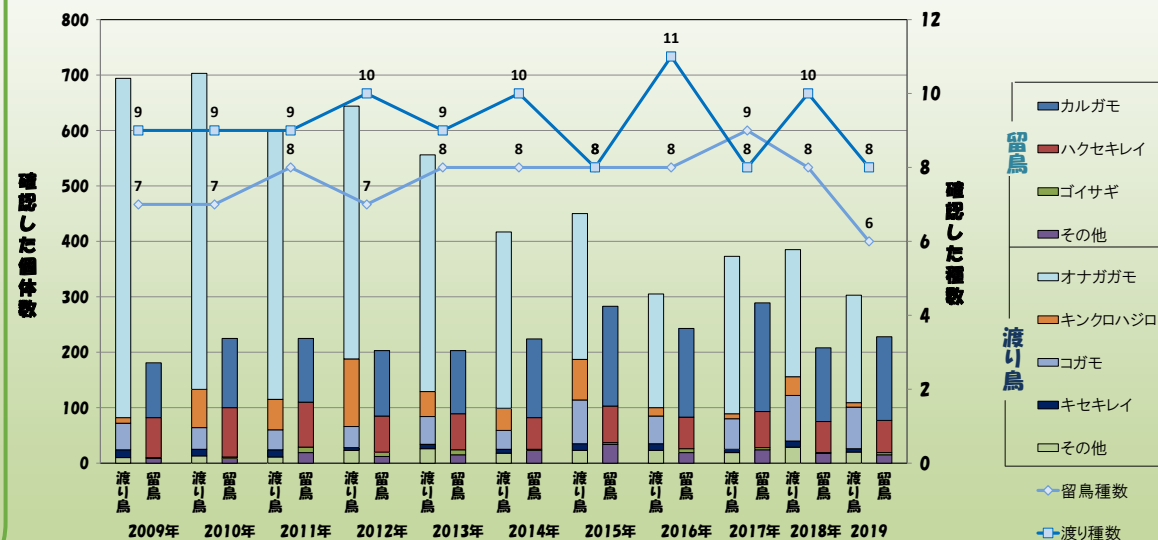
### <外来の鳥>

- ガチョウ、バリケン、ドバト、ホンセイインコ
- <市街地などを利用する鳥> スズメ、ハシフトガラス
- <草地・農地を利用する鳥> ジョウビタキ、ムクドリ、ハシボソガラス
- <林地などを利用する鳥> トビ、オオタカ、キジバト、オナガ
- <林地を利用する鳥> アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ
- <アカハラ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、シメ、アトリ>
- <林縁などを利用する鳥> モス、ツグミ、アオジ、カワラヒワ
- <水鳥(水辺を利用する鳥)> カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、バン、オオバン、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ユリカモメ

※調査時間外のみ確認種は除く

## ◇水鳥における渡り鳥と留鳥の確認状況の変化

- 渡り鳥の個体数は2009年には700羽程度でしたが、今年は300羽程度で、年々減少している傾向がみられます。
- 留鳥のカルガモの個体数は2009年には100羽前後でしたが、最近では、やや増え150羽を超える年が増えていきます。
- 種類数は、渡り鳥・留鳥ともに年による大きな増減はありませんが、留鳥は今年過去最も低い6種類しか確認されませんでした。



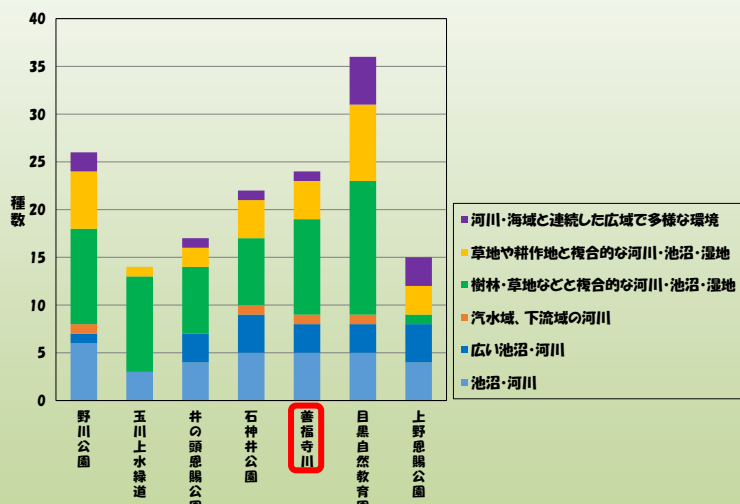
## ◇杉並区全域(※1)と善福寺川での確認された鳥類の違い

- 善福寺川では杉並区で確認されている冬鳥および留鳥をほとんど(約9割)を見ることができます。特に水鳥はイソシギを除くすべての種類が確認されました。
- 善福寺川のみで確認されている種として、「水鳥」ではヒドリガモ・ホシハジロ・ユリカモメ、「陸鳥」ではアトリ・ウソ・猛禽類のノスリが確認されました。

## ◇善福寺川と周辺緑地でみられる鳥の比較(※2)

水鳥の生息環境をさらに細区分し、都内で善福寺川と同じ台地に位置している、水辺環境を有する主要な公園・緑道・庭園で確認された水鳥の種類と比較しました。

- 種類数は目黒自然教育園、野川公園に次ぐ3番目の種類数でした。
- 都内の公園等の水鳥と比較すると、台地部の大きな水面を有する公園(井の頭、石神井)と、多様な環境と接する水路や河川の緑地の性質(野川、玉川上水)を併せもつ種構成であることがわかります。



種名	区分	善福寺川	杉並区全域
アオサギ	留鳥	●	●
イソシギ	留鳥	●	●
カイツブリ	留鳥	●	●
カルガモ	留鳥	●	●
カワウ	留鳥	●	●
カワセミ	留鳥	●	●
ゴイサギ	留鳥	●	●
ハクセキレイ	留鳥	●	●
バン	留鳥	●	●
オオバン	冬鳥	●	●
オシドリ	冬鳥	●	●
オナガガモ	冬鳥	●	●
キセキレイ	冬鳥	●	●
キンクロハジロ	冬鳥	●	●
コガモ	冬鳥	●	●
コサギ	冬鳥	●	●
スズガモ	冬鳥	●	●
セグロセキレイ	冬鳥	●	●
ダイサギ	冬鳥	●	●
ハシロガモ	冬鳥	●	●
マガモ	冬鳥	●	●
チュウサギ	旅鳥	●	●
ヒドリガモ	不明	●	●
ホシハジロ	不明	●	●
ユリカモメ	不明	●	●

種名	区分	善福寺川	杉並区全域
アオゲラ	留鳥	●	●
オオタカ	留鳥	●	●
オナガ	留鳥	●	●
カケス	留鳥	●	●
カワラヒワ	留鳥	●	●
キジバト	留鳥	●	●
コゲラ	留鳥	●	●
コジュケイ	留鳥	●	●
シジュウカラ	留鳥	●	●
スズメ	留鳥	●	●
チョウゲンボウ	留鳥	●	●
ツミ	留鳥	●	●
トビ	留鳥	●	●
ハシフトガラス	留鳥	●	●
ハシボソガラス	留鳥	●	●
ヒガラ	留鳥	●	●
ヒヨドリ	留鳥	●	●
ホオジロ	留鳥	●	●
ムクドリ	留鳥	●	●
メジロ	留鳥	●	●
ヤマガラ	留鳥	●	●
アオジ	冬鳥	●	●
アカハラ	冬鳥	●	●
アトリ	冬鳥	●	●
ウグイス	冬鳥	●	●
カシラダカ	冬鳥	●	●
シメ	冬鳥	●	●
ジョウビタキ	冬鳥	●	●
シロハラ	冬鳥	●	●
ツグミ	冬鳥	●	●
モス	冬鳥	●	●
ルリビタキ	冬鳥	●	●
ウソ	不明	●	●
エナガ	不明	●	●
ノスリ	不明	●	●

※1「杉並区自然環境調査報告書(第6次)」調査は1985～2013年の間に10回実施。旅鳥は除く。

※2「多様な生物が生息する都立公園づくり事業(東京都建設局、平成25～27年度)」における生物データを活用。

## ◇これまでの調査で確認された注目すべき種類

- 注目すべき種類として、18種類が該当しています。善福寺公園のあるAルートで最も多く、次いでEルートとCルートで多く確認しています。また、エナガは、東京都のレッドデータブックによると区部は非分布種となっていますが善福寺川で確認されています。

種名	国RD	東京都RD	これまでの調査で確認された場所					
			Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
カイツブリ		NT	●				●	
ダイサギ		VU	●	●	●		●	
チュウサギ	NT	VU	●	●	●	▲	●	●
コサギ		VU	●	●	●		●	
オシドリ	DD	EN			●			
スズガモ		※		●				
トビ		NT			●			
オオタカ	NT	CR	●				●	●
ノスリ		EN	▲					
バン		VU	●				●	
オオバン		VU	●		▲			
カワセミ		VU	●	●		▲	●	
アオゲラ		EN	●					
セグロセキレイ		VU		●	●			
モス		VU	▲			▲	●	
ウグイス			●				●	●
エナガ		●					●	
ヤマガラ		VU					▲	
ウソ		NT	▲					
種数の合計			12	5	8	6	10	2

※1 レッドデータブック(環境省2013)  
NT:準絶滅危惧  
DD:情報不足

※2 東京都レッドデータ(東京都2013)  
CR:絶滅危惧 I A 類  
EN:絶滅危惧 I B 類  
VU:絶滅危惧 II 類  
NT:準絶滅危惧  
※:留意種  
.:非分布種

▲ 調査時間外のみ確認種

